

あさひなの米づくり情報



水管理の徹底 → 除草剤の効果持続

水深 3~5cm を目安に管理し、分けつの促進を図りましょう。水が無くなったら給水し、除草剤の効果を持続させましょう。田面の露出や急な給水は土壌表面の除草剤成分が壊れる原因となりますので注意しましょう。

万が一、雑草が残ってしまったら・・・

雑草の種類と大きさを確認します。移植後日数を考慮し、中・後期除草剤の使用を検討しましょう。

◎主な中期剤・後期剤

対象雑草	除草剤名	使用時期	10a 当たり使用量
ノビエ	クリンチャー1 キロ粒剤	移植後 7日~ノビエ 4 葉期	1kg
広葉雑草	バサグラン粒剤	移植後 15日~55日	3~4kg
	バサグラン液剤	移植後 15日~55日	薬液 500~700ml (水 70~100L)
ノビエ 広葉雑草	アクシズMX1 キロ粒剤	移植後 7日~ノビエ 4 葉期	1kg
	ニトウリュウ 1 キロ粒剤	移植後 15日~ノビエ 4 葉期	1kg
	ワイドパワー粒剤	移植後 20日~ノビエ 5 葉期	3kg
	クリンチャーバス ME 液剤	移植後 15日~ノビエ 5 葉期	薬液 1000ml (水 70~100L)

環境保全米の方は・・・ 必要に応じて「バサグラン剤（1回）」を使用して下さい

クログワイ・オモダカ・シズイ等の多年生雑草でお困りの方は JA にご相談下さい。

いもち病予防 残苗（いもち病発生源）の処分

補植用残苗はいもち病菌の増殖の原因！土中に埋めるか焼却処分する。

早期処分

伝 染 伝 染

残 苗 → 葉いもち → 穂いもち （いもち病菌の元を断つ、増殖を防ぐ！）

- ※ 気象経過により発生量に大きな変動がありますので、いもち病の発生動向に注意が必要です。
- ※ いもち病（昨年発生が見受けられました）は予防防除が基本です。箱処理をされていない方（直播栽培等）は本田剤により予防防除を実施して下さい。

稲体強化によるいもち病の予防（環境保全米・慣行栽培共通）

6月下旬に、「畑のカルシウム」・「とれ太郎」等（20~40kg/10a）を施用しましょう。稲体を強化することにより、病害・冷害・倒伏に強い健康な稲が育ちますので品質・食味向上にもつながります。

発生予報第3号（5/20 宮城県病害虫防除所 抜粋）

病害虫名	発生時期	発生量
イネミズソウムシ	やや早い（5/26~5/31）	平年並
イネドロオウムシ	平年並（6/6~6/10）	平年並